

令和5年 12月 10日

出張報告書

栗山町議会議長

鵜川和彦様

栗山町議会議員 斉藤隆浩



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和5年 11月 10日～11日
- 2 出張先 農林水産省
- 3 調査事項
 - ・みどりの食料戦略
 - ・食料・農業・農村基本法検証動向
 - ・水田関連施策（交付金等）
 - ・稲作の低コスト生産
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	令和5年11月10日 13:30～16:00
視 察 先	農林水産省 東京都千代田区霞が関1-2-1
調査事項	1. みどりの食料戦略 2. 食料・農業・農村基本法検証動向 3. 水田関連施策（交付金等） 4. 稲作低コスト生産
対 応 者	穀類課 須田係長 吉濱課長補佐 山本企画官 坂井専門官 菅島係長
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 （感想、政策提言、課題など）	みどりの食料システムについて 13:30～14:10（吉濱） 1. 制度概要 2. モデル事例の説明 3. おすすめ政策の紹介 4. 質疑応答 食料、農業、農村基本法 14:20～15:00（山本） 1. 4つの方向性 2. 輸出についての食料の考え方 3. 人口減少（自然減）について 4. 施策概要 5. 質疑応答 水田関連（交付金等）について 15:05～15:25（坂井） 1. 令和5年補正予算と令和6年予算の考え方 2. 施策説明 3. 質疑応答 稲作低コスト生産 15:30～16:15（菅島） 1. 生産コストの現状 2. 作付面積別生産費の解説 3. 農業者の労働に関わる現状と課題 ※終了後畜産課と情報交換 16:20～16:50 須田係長が時間及び内容等について調整をした 齊藤義崇副議長に帯同 主な質疑：令和5年度補正予算成立の日だった事もあり最新の農業政策について具体的に伺うことが出来た。特に水田の交付金につ

いては補正予算で750億円もの大きな額が可決されたため水田地帯栗山町の生命線である水田活用直接交付金や畑地化支援金等について深く掘り下げて質疑させていただいた。また省力栽培による水稻栽培や温室効果ガス削減の取組等水田の将来へ向けた様々な施策についても質問させていただいた。

考察：齊藤義崇副議長が毎年農水省へ出向いて研修を受けているとお聞きし今回私も帯同させていただき4点について研修させていただいた。時代の流れは循環型社会でありSDGsに対して行政も企業も積極的に取り組んでいる。その中でも農業は温室効果ガス削減に効果的であり注目されている産業である。しかしながら少子高齢化で農業者人口が激減する中、一戸当たりの経営面積が急速に拡大している。資材等の経費も高騰していく中で持続可能な農業経営をしていくにはどうしたらいいのか、栗山町で農業を営む農業者にとっても喫緊の課題となっている。また令和5年から水田の交付金制度が厳格化され水田地帯栗山町にとっては大きな転換期を迎えている。大きく変わりつつあるこれからの農業政策をしっかりと把握し有効活用することで今までの農業形態から新たな農業形態を模索し将来にわたって持続可能な農業経営をしていかなければならない。農水省も日本の農業を守るために様々なことを想定し課題解決に邁進している姿が感じられた。令和5年補正予算や次年度の予算、また国が主導する農業政策も見据えながら栗山町農業の可能性を更に伸ばしていけるよう今回の調査も含め栗山町農業の発展に活かしていきたい。